



## 着任に際して

東北森林管理局次長  
・青森事務所長

吉野 示右

このたび、東北森林管理局次長、青森事務所長を拝命し、着任しました。東北地方は平成5年に青森営林局久慈営林署長以来の勤務となり、実に20年以上ぶりとなります。そんなに時間がたっていたことに自身も驚いていますが、当時、まだ若く、気負いもあった私を当時の署の職員の皆様や関係者に支えられ何とか勤めを果たすことができたことと記憶しています。当時の皆様の暖かさが今でも忘れられません。

ここで簡単に自己紹介をさせていただきます。私は、徳島県で生まれ、奈良県で育ちました。勤務地は、東京のほか旭川営林支局、鹿児島県、中部森林

管理局です。また、林野庁以外の勤務官署は、農林水産省構造改善局、大臣官房、鹿児島県庁及び環境省です。特に、環境省では、野鳥の鳥インフルエンザ対策やシカやカワウの鳥獣害対策等を担当していました。

本年度の主要取り組み事項としてニホンジカ対策があげられていますが、全国的にシカ被害は深刻で、東北地方においては宮城北部と岩手中南部に被害が出ています。ニホンジカは全国に300万頭おり、1年経過すると全体頭数の2割が増加するといわれており、およそ60万頭です。最低でもその数を捕らないと増加することとなりますが、現在の捕獲水準は

50万頭弱で、もう少しがんばらないといけない状態です。ニホンジカは環境適応力が強く好みの植物がなくなると好みでない植物まで食べ出すほど生命力が強く、また、学習能力も高く、人が仕掛ける捕獲行為を学習し、仕留め損ねると同じ方法では捕まえられなくなりません。こう言ったシカのことをスレジカと呼びます。スレジカを作らないように捕らえる手法の確立が今求められています。

また、世界自然遺産である白神山地でもニホンジカの目撃があることから、この地域を守るための監視と防除が重要です。関係機関とも連携し進めていく必要があります。

さらに、林業の低コスト化もきわめて重要です。以前に居た中部森林管理局でも、高密度網の作設、コンテナ苗の植栽、列状間伐の推進など体験しましたが、ここ東北の地に合った手法を取り入れ、低コスト化林業を確立させる必要があると考えています。

東北森林管理局には全国的に有名な青森ヒバ、秋田スギといった美林があります。その重

要性を強く認識し、青森ヒバについてはヒバ林の復元を、また、秋田スギについては県と協調した高齢級スギのブランド化を推進したいと考えています。

東北森林管理局は5県を管轄し、その広大さ、事業量の大きさ等重要さをひしひしと感じています。

最後に、国有林野事業は一般会計になり、4年目を迎えますが、これまでと大きく異なることの一つに、何を行っているかについて国民に説明責任を果たす必要があります。国有林野事業として何をやっているのかは、予算決算や白書で国会に報告されていますし、国有林野のミニ白書でも説明しているところですが、署単位でも署で何を行っているかについて説明できる機会があれば是非積極的に実施してください。そして、地域での国有林の存在感を示して欲しいと思っています。地域とともに森林林業を盛り上げ、頼られる国有林となれるよう皆様と一緒にがんばっていきたくと考えていますのでよろしくお願いします。